



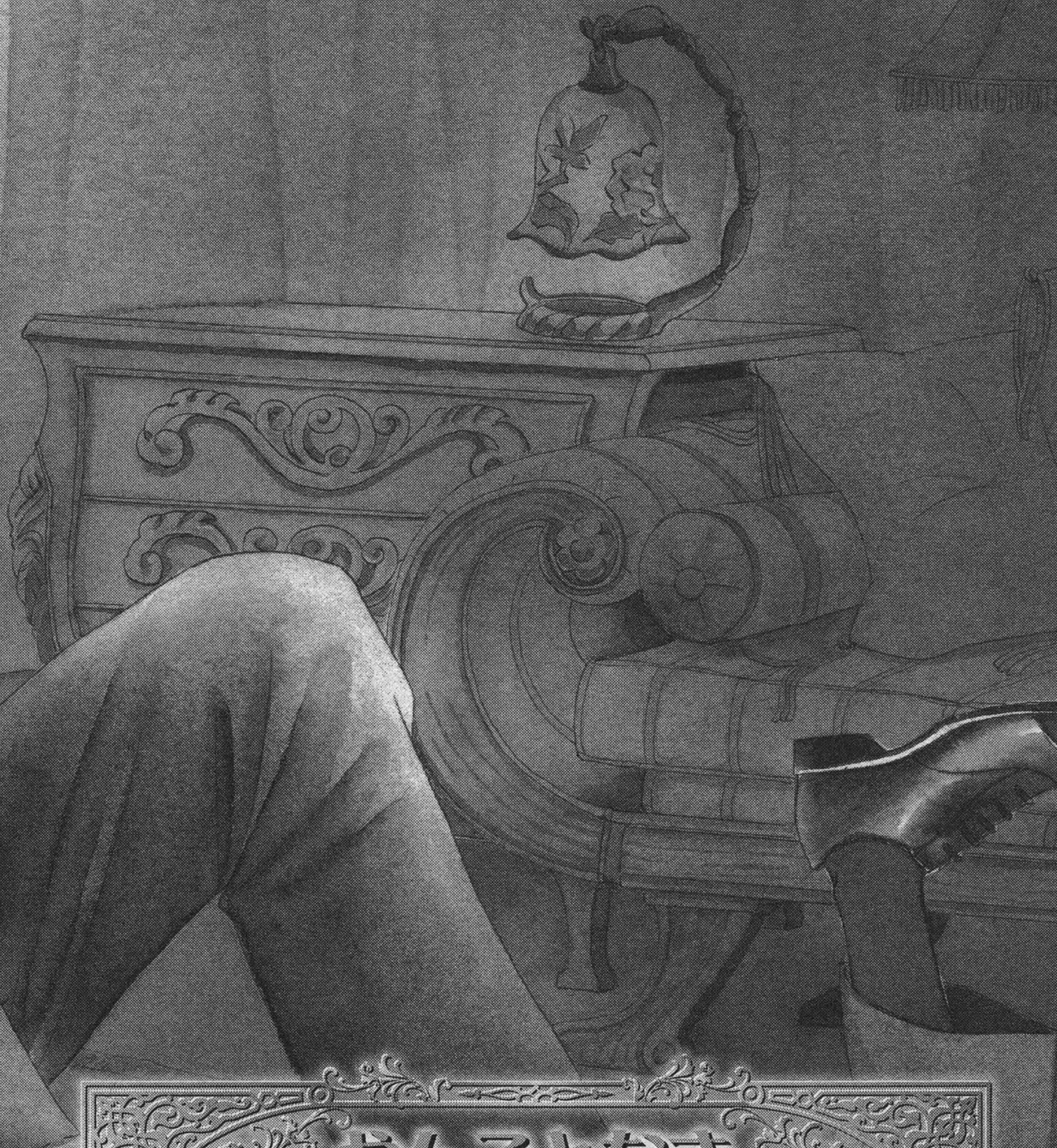
昭和時代はなんとなく
『華族』という
セレブな身分があつた頃

ここは主にその
子弟達が通う
『帝都院高等学科』



特別な
社交場があつた

そこには
華族のみが
入室を許される



やんごとなき
ホタルの原元
宿

格付1



その名も
「紳士俱楽部」

なんのひねりも
社サないその
交ロいシテは

Gentlemen Club

「眉目秀麗な華族様」と謳われる
が東芝公爵とそのおどりまき
席巻していた
東芝恒義の嫡男
操とそのおどりまき









意外と
年上シユミ
なんですね

僕が五つの時から
五年ほど常盤とは
兄弟のように
過ごしていったのだが

その後は家柄の
ことなど色々あつてな

なかなか会えなく
なつてしまつたのだ

忘れられない
大切な人
だつた故

そして僕が十一に
なつた頃
ある日突然
英國に留学して
しまつたのだ

英國と聞くと
つい思い出されてな

それはさぞや
今もトキワ様と
お会いしたい
でしようね

だから
興味もわいて
くるのだ

古よつとしんめり



